

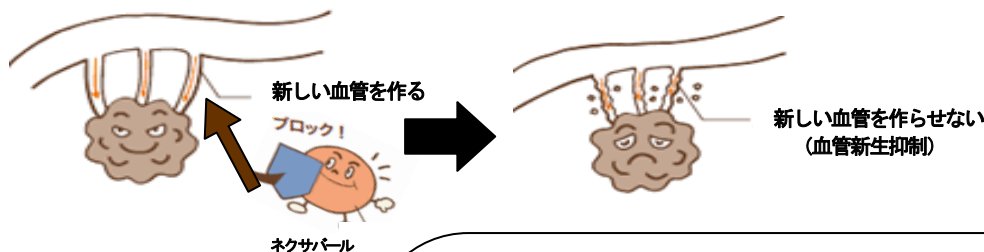
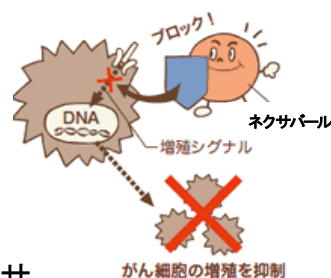
分子標的薬について No. 4 腎がん治療

★ ネクサバル（ソラフェニブ）

ネクサバルは、がん細胞にある血管内皮増殖因子受容体（VEGFR）と呼ばれるタンパク質を標的として作用します。（チロシンキナーゼ阻害剤）

VEGFRは、がん細胞が増殖するのに必要な信号を伝える働きをしているため、ネクサバルが作用することにより信号が伝わらなくなり、がん細胞の増殖が抑えられます。

また、がん細胞が増殖するために必要な新しい血管を作る作用があり、ネクサバルが作用することにより新しい血管ができなくなる（血管新生を抑制する）ため、栄養や酸素が補給されなくなりがんの成長が妨げられます。（兵糧攻め）



使用方法は・・・？

のみぐすりです。通常1日2回、1回2錠を服用します。
脂肪分が多く、高エネルギーな食事を摂る場合には、食事の1時間前から食後2時間までの間を避けて服用して下さい。

起こりやすい副作用は・・・？

手足症候群（手のひらや足の裏に起こるチクチク感、ヒリヒリ感といった皮膚の違和感、ほてり感、赤く腫れる、角質が厚くなるなど）、発疹、脱毛、高血圧、下痢、食欲不振、声のかすれ、疲労感等の症状が現れることがあります。

手足症候群を予防するために・・・



- ★ 手を洗った後・入浴後・就寝前には、乾燥しないように保湿クリームを塗りましょう。
- ★ 手のひらに力がかかる作業は避け、ゆるめの手袋を着用し、手を保護しましょう。
- ★ 締め付けの少ない厚手の靴下や履きやすい靴を使用し、足を保護しましょう。
- ★ 熱い風呂（40℃以上）や長時間の入浴（10分以上）は控えましょう。



起こった後は、ステロイド剤、保湿剤、痛み止めなどで治療を行います。

★ スーテント（スニチニブ）

スーテントは、ネクサバルと同様に VEGFR と呼ばれるタンパク質を標的として作用し、がん細胞の増殖と血管新生を抑えます。

使用方法は・・・？

のみぐすりです。通常1日1回4カプセルを4週間続けて服用し、その後2週間休薬します。これを1コースとして繰り返します。

起こりやすい副作用は・・・？

歯ぐきや鼻からの出血・内出血、発熱、皮膚変色、手足症候群、疲労感、食欲不振、高血圧等の症状が現れることがあります。

★ アフィニトール（エベロリムス）

アフィニトールは、がん細胞にある mTOR(エムトール) と呼ばれるタンパク質を標的として作用します。

mTOR は、VEGFR と同様にがん細胞が増殖するのに必要な信号を伝える働きや、新しい血管を作る作用があります。アフィニトールが作用することにより、信号が伝わらなくなり、がん細胞の増殖が抑えられるとともに、血管新生を抑制し栄養や酸素が補給されなくなり、がんの成長が妨げられます。（兵糧攻め）

使用方法は・・・？

のみぐすりです。通常1日1回2錠を空腹時に服用します。食事の1時間以上前か、食後の2時間以降で、1日のうち同じ時間帯になるように決めて服用します。

起こりやすい副作用は・・・？

咳・発熱・息切れ、発疹、口内炎、高血糖、脂質異常、吐き気、下痢、疲労、食欲不振、貧血、鼻などからの出血、味覚異常等の症状が現れることがあります。

★ トーリセル（テムシロリムス）

トーリセルは、アフィニトールと同様にがん細胞にある mTOR と呼ばれるタンパク質を標的とし、がん細胞の増殖と血管新生を抑えます。

アフィニトールはのみぐすりですが、トーリセルは点滴です。

使用方法は・・・？

1週間に1回、30～60分間かけて点滴します。

起こりやすい副作用は・・・？

咳・発熱・息切れ、発疹、口内炎、高血糖、脂質異常、吐き気、疲労、食欲不振、貧血等が起こることがあります。

